

## 食品添加物のスマート・リスクコミュニケーション ～社会実装例～

### The Smart Risk Communication Concerning Food Additives - An Example of Social Implementation

○大瀧直子\*, 山崎毅\*

Naoko OHTAKI-SHIMAUCHI and Takeshi YAMASAKI

**Abstract.** Last year, we examined in details on the risk perception biases toward food additives before and after the lecture at a cooking art college, and found that the ratio of risk perception bias in students significantly decreased after the food safety lectures and the series of questionnaires addressing anxieties in food safety (smart risk communication: SRC). In this study, we re-analyzed the correlation between the improvement ratio of understanding health risk of food additives and the acceptance of food additives usage on their cooking in the previous research. And then, we selected the effective questions (4 out of 7), based on the sympathy with their anxiety, and significantly correlated with the acceptance of food additives usage on their cooking for the 2<sup>nd</sup> version of SRC. We will verify and discuss the effectiveness of new SRC in this session.

**Key Words:** smart risk communication, confirmation bias, food safety, food additives

#### 1. 序論、目的ならびに方法

一昨年、我々はインターネット調査により食品添加物の確証バイアスをターゲットとして、消費者の不安に共感する設問をベースとしたスマート・リスクコミュニケーション(SRC)を開発/効果検証を実施し、79%の回答者でリスク認知バイアスの低減が認められた。また昨年、地域の調理技術専門学校において、学生62名に対して、食品安全学の講義を行い、受講前後に食品添加物の確証バイアスに対するSRCを採り入れたアンケートを実施し、有意なバイアスの低減を認めたことを報告した。本研究では、昨年の調理技術専門学校における調査データについて、食品添加物のリスクに関する7項目の設問による理解度の改善度合いと調理に食品添加物を使用する抵抗感の解消度合いに有意な相関があったかどうか線形回帰分析により明らかにした。さらに、本結果からより有効な設問を見出すことで、新たな食品添加物のSRC手法を開発することを目的とした。

#### 2. 結果ならびに考察

学生の食品添加物に対する抵抗感が講義前後で有意に減少した(48.4%→24.2%)が、抵抗感の解

消度合いと食品添加物に対する不安要因の改善度合いで線形回帰分析により有意な相関を認められたのは以下の設問であった：1)食品添加物が原因で起きた健康被害の歴史(P<0.05)、2)天然の無添加食品に対する安全信奉(P<0.01)、3)消費者のメリットがない(P<0.01)、4)保存料や着色料には健康に良くないものあり(P<0.05)。

これら有効性を認めた不安要因に共感する設問4つに加え、食品添加物に対する不安要因を追加し、合計10項目の不安要因+有識者の学術的見解を提示するSRC-Ver.2を考案した：①健康被害事故の歴史、②消費者メリットのなさ、③天然無添加食品が安全、④保存料や着色料に良くないものあり、⑤発がん性や遺伝毒性への懸念、⑥無添加の宣伝広告を見た、⑦体内に蓄積の懸念、⑧添加物同士の複合影響の可能性、⑨アレルギー児が増えた原因、⑩海外で使用禁止なのに国内で許可。

本発表では「不安要因に共感」⇒「各要因に対する有識者によるわかりやすい学術的説明」という食品添加物に関する新たなSRCが、消費者の「食の安心」につながるリスクミ手法として社会実装に応用可能なものかどうかを議論する。

\* 特定非営利活動法人食の安全と安心を科学する会 (NPO Science of Food Safety and Security, Japan)